

1 3. 新規放牧就農者への技術支援と経営確立に向けた取り組み

東部振興局・1) 北部振興局・2) 中部振興局

○秋好禎一・植木佳孝¹⁾・仁田坂俊輔²⁾

【背景】

肉用牛繁殖（放牧）のファーマーズスクール研修生が、令和2年に国東市で就農した。
農業次世代人材投資事業（経営開始型）を活用するなかで、東部振興局では国東市及び振興局農山漁村振興部と連携しながら畜産技術並びに経営の支援を行ってきた。

【取組内容】

- ・就農に向けた支援
ファーマーズスクールでの技術習得、放牧地の確保、補助事業の活用
- ・繁殖成績の向上
家畜保健衛生所と連携した繁殖指導、繁殖成績のデータ管理
- ・子牛の発育向上
定期体測による発育状況確認、給餌方法の改善
- ・経営支援
就農開始時の資金計画支援、就農後の資金繰り

【成果】

- ・飼養規模に応じた放牧地 4.5ha を確保すると共に、簡易牛舎及び飼料運搬用機械等整備を支援。
- ・繁殖雌牛飼養頭数は補助事業も活用し 21 頭となっており、就農時計画頭数（20 頭）を上回っている。
- ・県の家畜人工授精師講習会で人工授精免許を取得し、飼養牛は全頭経営主本人が行っている。

【残された課題】

- ・放牧地面積が就農時に計画した 8 ha に達していないため、飼養規模に応じた面積を確保できるよう、国東市と共に候補地を模索している。
- ・現時点の平均分娩間隔は 17 ヶ月であり、子牛の出生頭数は 16 頭と計画時の 18 頭を下回っているため、今後 13 ヶ月を目標に飼養管理の徹底を図る。
- ・子牛は母牛とともに放牧地で自由採食に近い飼養管理で、令和 6 年に販売した子牛の平均日齢体重は、去勢 0.94 kg、雌 0.85 kg と市場平均を下回っている。子牛の飼料摂取量を増やすめの別飼い飼育等管理技術を徹底したい。
- ・就農時（令和 2 年）の全国子牛平均価格は 736 千円で、子牛出荷が始まった令和 5 年は 541 千円に低下したため、計画した所得を確保できておらず、償還財源の確保等経営安定支援が急務。